

正誤表

研究双書 No.639 『中台関係のダイナミズムと台湾——馬英九政権の展開——』に以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

ページ	該当箇所	誤	正
60	10～11 行目	…いわゆる「逆説明責任」 ¹⁴⁾ 的關係におかれることになる。	…いわゆる「逆説明責任」的状況 ¹⁴⁾ に似た状況におかれることになる。
	14～15 行目	…と考えられる(斉藤 2010, 8) ¹⁶⁾ 。	…と考えられる ¹⁶⁾ 。
	脚注	14) Stokes (2005) は、民主主義体制において政治エリートが有権者の支持をつなぎとめるために競争するのではなく、逆に有権者が政治エリートからの利益分配を得るために競争しなければならない状況を「逆説明責任」(perverse accountability)とよんでいる(Stokes 2005, 315-316)。	14) 斉藤(2010)は、ストークスが提起した「逆説明責任」(perverse accountability)という概念(Stokes 2005)をふまえて、自民党長期政権下における利益誘導政治を分析している。そのなかで、「長期的に政権を担う自民党の存在を前提に、利益分配にありつくための競争が、有権者の間で展開されることになった」(斉藤 2010, 8)ことを指摘し、有権者が政権党から利益分配を得るために競争を強いられる状況を「逆説明責任」的状況とよんでいる(斉藤 2010, 8)。
61	下から 6～7 行目	…共産党とのあいだで「逆説明責任」的関係におかれることになる。	…共産党とのあいだで「逆説明責任」的状況に似た状況におかれることになる。
66	12～13 行目	…企業家たちが「逆説明責任」的関係におかれていたためとも…	…企業家たちが「逆説明責任」的状況に似た状況におかれていたためとも…
225	右段 3 行目	逆説明責任 60-61, 66	「逆説明責任」的状況 60-61, 66

(2019 年 10 月 11 日 学術情報センター成果出版課)